

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性報告日）】

前週： 令和5年第8週 令和5年2月20日(月) ～ 令和5年2月26日(日)

今週： 令和5年第9週 令和5年2月27日(月) ～ 令和5年3月5日(日)

項目		前週	今週	前週比	これまでの最大値		
感染の状況	陽性者数	①総数	728人	514人	↓	22,063人	令和4年第30週
		医療機関報告分 ^{※1}	630人	436人	↓		
		セルフテスト陽性 ^{※2}	98人	78人	↓		
	②対人口10万人（総数）	47.3人	33.4人	↓	1,433人	令和4年第30週	
	③前週との増加比（総数）	0.63	0.71	↑	18.0	令和4年第1週	
④陽性率 ^{※3}	12.8%	8.8%	↓	64.3%	令和4年第30週		
医療提供体制	⑤入院患者 （陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	58人	29人	↓	368人	令和4年第31週
		（病床使用率）	12.0%	6.0%	↓	93.9%	令和3年第33週
		（確保病床数）	485床	485床			
	⑥重症患者 （陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	1人	0人	↓	68人	令和3年第34週
		（病床使用率）	1.4%	0.0%	↓	146.7%	令和3年第33週
		（確保病床数）	69床	69床			

※1 市内医療機関等から新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）により報告があった1週間の陽性者数の合計

※2 自己検査で陽性となり、その旨を神奈川県に連絡・申請し、登録された方の1週間の合計（神奈川県記者発表資料の件数を基に集計）

※3 陽性率を算出するための検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）により報告があった検査件数（速報値）の合算を用いております。

※4 直近の日曜日の報告数

<モニタリング項目の見直しについて>

令和4年9月26日に全国一律で発生届出対象の見直しが行われたため、モニタリング項目を再検討し、令和4年10月4日公表分からは「陽性者数」、「陽性率」、「入院患者」、「重症患者」に係る項目のみ掲載することといたしました。

＜変異ウイルス検出状況＞

川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関のゲノム解析によって確定された件数

系統		前週	直近 1 週間	累計
		R5.2/20 - R5.2/26	R5.2/27 - R5.3/5	R3.3/11 - R5.3/5
アルファ株		0	0	203
デルタ株		0	0	626
オミクロン株	BA.1系統	0	0	581
	BA.2系統	1	6	535
	BA.2.75	(1)	(6)	(50)
	上記以外BA.2	(0)	(0)	(485)
	BA.4系統	1	0	9
	BA.5系統	21	11	902
	BF.7	(5)	(3)	(41)
	BQ.1	(8)	(5)	(79)
	上記以外BA.5	(8)	(3)	(782)
	XBB系統	0	1	2
	XBC系統	0	1	2

※令和 5 年 2 月 7 日公表分から、BA. 2. 75、BF. 7、BQ. 1、XBB 系統、XBC 系統の件数を新たに掲載しております。

<評価> 令和5年第9週（令和5年2月27日～3月5日）

令和5年第9週（今週）は、陽性者総数については令和4年第52週より10週連続して減少しています。前週との増加比は第51週より11週続けて1.0を下回っています。

入院患者数は、令和4年第52週より10週続けて減少しています。入院中の重症患者数は前週1人から今週0人となっています。入院中重症患者が0人となったのは、昨年第25週以来36週ぶりです。

指標としている数値は、10項目中9項目が減少、前週との増加比1項目が0.63から0.71に増となっていますが、1.0を下回り続けています。

<感染の状況：直近1週間>

- ① 昨年暮れから現在にかけてのいわゆる第8波では、医療機関から報告された陽性者数は、第43週2,676人から増加が続き、第50週11,814人がピークとなり、第51週より減少がはじまりました。本年に入ってから、第1週8,719人から、第8週（前週）は630人で、第9週（今週）は436人と昨年第51週以降11週続けて減少しています。

同じく、セルフテスト陽性者数は、第42週378人から増加が続き、本年第1週3,166人がピークとなりました。第2週1,873人から、第8週（前週）98人、第9週（今週）78人と、第2週以降8週連続して減少しています。

医療機関報告分とセルフテスト陽性者数の総数は、第50週14,457人がピークとなり、第51週より減少が始まりました。本年に入ってから、第1週11,885人から、第8週（前週）728人、そして第9週（今週）は514人で、第51週以降11週連続して減少しています。

- ② 対人口10万人あたりの陽性者数は、第50週938.8人がピークで第51週から減少が始まりました。本年に入ってから、第1週771.8人から、第8週（前週）47.3人、第9週（今週）は33.4人と11週連続して減少しました。
- ③ 前週との増加比は、第44週1.73をピークにして第49週1.09まで5週続けて減少傾向となりました。第50週は1.22と増加しましたが、第51週は0.99と再び減少に転じ、9週間ぶりに1.0以下となりました。若干の増減を繰り返しながらも1.0以下は続き、第1週0.97からはやはり多少の増減を繰り返しながらも全体的な減少傾向は続き、第8週（前週）は0.63となりましたが、第9週（今週）は0.71と若干増加しています。しかし、1.0以下は10週間連続しています。
- ④ 検査陽性率は、本年第1週60.4%から減少が続き、第8週（前週）は12.8%、第9週（今週）は8.8%と8週連続して減少しています。

<医療提供体制等の負荷：報告日3月5日現在>

- ⑤ 令和4年の入院中の患者数は、第7週335人がいわゆる第6波のピーク、第7波は第31週368人がピークでした。第8波は、第51週315人がピークで、本年は第1週274人から第8週（前週）58人、第9週（今週）29人と、第52週以降10週連続して減少しています。

入院病床使用率は、第6波では第7週70.2%がピーク、第7波では第31週75.9%がピークでした。第8波は第51週64.9%がピークで、本年第1週56.5%以降は、第8週（前週）12.0%、第9週（今週）6.0%と第52週以降10週連続して減少しています。

確保病床数は現在合計485床です。

- ⑥ 重症入院患者数は、第6波では第8週30人がピークで、第21週から第25週の5週間は0人でした。第7波では第32週14人がピークで、第40週から第43週の4週間は1人でした。第8波は第49週に11人と増加した後いったん減少し再び増加、第3週の13人がピークでした。第4週9人以降、第5週4人→6人→1人→1人でしたが、第9週（今週）は0人となり、昨年第25週以来36週ぶりに重症入院患者数0となりました。

第6波の重症病床使用率は第8週の43.5%がピークで、第21週から第25週は重症入院患者数0

人のため重症病床使用率も5週連続して0.0%となっていました。第7波は第32週の20.3%がピークで第40週から第43週は1.4%となっていました。第8波では、令和5年第3週18.8%がピークで、若干の増減を繰り返しながら第7週・第8週（前週）は1.4%、第9週（今週）は0.0%となり、昨年第25週以来36週ぶりに重症病床使用率0.0%となりました。

重症者の確保病床は現在69床です。

<変異ウイルス検出状況>

第9週（今週）は、BA.2系統6件中BA.2.75が6件、それ以外のBA.2が0件。BA.4系統0件、BA.5系統11件中BF.7が3件、BQ.1が5件、それ以外のBA.5が3件。XBB系統が1件、XBC系統が1件でした。

昨年末より現在にかけて、本市での新型コロナウイルス感染症は、陽性者・入院患者・重症患者数の減少が続いています。第9週（今週）の3月5日現在、入院中の重症患者数は昨年第25週以来36週ぶりに0人となりました。感染者数や入院患者数の動きについては引き続き注意をしていく必要がありますが、感染者数のみならず入院患者数ことに重症患者数の減少は大変ありがたいことで、市民の皆様のご理解とご協力、そして関係する方々のご努力に深く感謝申し上げます。なお、川崎市の第8波においては重症者数・死亡者数等に際立った増加はみられておりませんでした。重症者や亡くなられた方の多くは全国的にもワクチン未接種あるいは接種回数不足であり、特に高齢者の方へのワクチン接種は強く勧められるところです。

市内のサーベイランスからは、大きな数値ではありませんがインフルエンザの発生が続いています。インフルエンザも新型コロナウイルス感染症も、基本的な注意は共通です。不特定多数の方々が集まるようなところではできるだけ三密を避ける、閉鎖空間では換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにする、などになります。

マスクを着ける、着けないの議論が、盛んにおこなわれていますが、感染のリスクがほぼない場面では着ける必要はない、リスクの低そうな場面では外すことも可能、リスクの高そうな場面ではできれば着けたほうが良い、リスクが明らかにある場面では必ず着ける、という考え方ではいかがでしょうか。

一方、花粉の飛散も始まっており、マスクの効果は感染症の予防だけではありません。必要に応じて適宜つけたり外したりということが肝要かと思いますが、それはまたそれぞれの方で条件が異なるものと言えます

また、もし発熱や嘔気・嘔吐・下痢などの症状がみられた場合には、無理せず体を休めることも大切です。高熱が続く、息苦しさを感ずる、もともとの持病が悪化傾向にある場合などは、新型コロナやインフルエンザであるなしに関わらず早めの受診が必要です。かかりつけの先生あるいは医療機関や保健所などへご相談ください。検査、受診などに関しては、川崎市ホームページ (<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000116178.html>) などにも案内が掲載されています。